

第 45 回 北海道支部定期総会報告

森 隆 広

1. はじめに

日本技術士会北海道支部の第 45 回定期総会が 2010 年 4 月 28 日(水)ホテル札幌ガーデンパレスで開催されました。総会の配付資料(議案内容等)については、121 号後ろの定期総会報告に掲載しておりますのでご覧下さい。ここでは、昨年度と同様、主に総会審議の概要と講演会および懇親会の会場の様子を中心に報告します。

2. 総会

(1)出席状況

- ・支部会員 149 名
- ・協賛会員他 61 名
- ・委任状 433 名

会場出席者は、合計 210 名

(2)第 1 号議案、第 2 号議案の審議

第 1 号議案である平成 21 年度事業報告および決算報告、第 2 号議案である平成 22 年度事業計画および予算案については、お一人から特別会計の表記ミスのご指摘があったのみで、内容については、特



写真-2 開催挨拶をする斉藤支部長(その2)



写真-3 右より斉藤支部長、能登副支部長、中野副支部長

に質問や意見がありませんでした。ご指摘があった箇所を事務局が修正をするという返答後、賛成多数で無事承認されました。

(3)第 3 号議案の審議

第 3 号議案にある北海道支部規則内規の改訂(協賛会員の「会友」への名称変更)については、斉藤支部長がその背景、理由を説明した後に、大谷事務局長より改訂内容の説明があり、審議に入りました。定期総会開催を遡ること、既に発行済みのコンサルタンツ北海道 120 号のお知らせにて事前に「協賛会



写真-1 開催挨拶をする斉藤支部長(その1)



写真-4 内容を説明する大谷事務局長



写真-5 会場の様子(その1)



写真-6 質疑応答の様子(その1)

員」から「会友」への変更に関して掲載してあったこともあり、会場からはお二人から質問と意見がありました。賛成多数で無事承認されました。

審議における主な内容は以下の通りです。

「会友」に関して日本技術士会の本部は了承しているのかという質問については、本部とも相談し、理解を得られていることをご説明し了解を頂きました。

た。

協賛会員の時は、協賛会員 A と協賛会員 B があったが、技術士も技術士補も「会友」という一つの名称なのか、また、(技術士と技術士補との)違いは会誌の年間購読料の差だけなのか、という質問については、その通りであり、「会友」においては、A とか B とかという区別はせず一つの名称で統一することになっていること、技術士の方は年間購読料が 5 千円、技術士補の方は年間 3 千円となっている違いに止めていることをご説明し了解頂きました。

全国の支部の中で他の支部でも「会友」のような仕組みを持っているか、あるいは北海道支部だけなのか、という質問に対しては、北海道だけであるという返答をし、了解を頂きました。加えて、斉藤支部長より、コンサルタンツ北海道という立派な会誌を発行しているからこそできる仕組みであり、他の支部長からは、大変良い仕組みであり、北海道が羨ま



写真-7 質疑応答の様子(その2)



写真-8 会場の様子(その2)

しいという話を頂いているということをご説明したところ、質問者の方からは満足感を持って納得を頂きました。

(4) 報告事項

事務局より平成 22 年度(社)日本技術士会会長表彰の推薦について報告がありました。総務委員会で選考され、支部役員会で了承されたことから、北海道支部からは板垣恒夫支部会計監事と松井義孝支部幹事のお二人を推薦することになりました。

以上をもって議事が全て終了し、総会は終了しました。

3. 講演会

今回は北海道大学総長の佐伯浩氏をお招きし、「高等教育機関における人材育成の課題」と題して、ご講演を頂きました。

講師である佐伯氏は、北海道大学工学部長、理事・副学長などを歴任した後、平成 19 年より北海道大学総長を努めておられ、専門分野は、海岸工学、港湾工学、氷工学、寒地海洋工学です。かつて佐伯氏に教わった方も会場には何人か居られたようです。以下、佐伯総長と称して記していきます。



写真-9 講演する佐伯総長

(1) 主な講演内容項目

今回、佐伯総長は主に下記の 7 つの項目について講演されました。

1. 学士課程教育の制度改革の歴史と現在の課題
2. 新たな学士課程の内容
3. 国立大学の改革の方向性
4. 中長期的な大学教育のあり方(中教審)
5. 大学の国際化
6. 我が国の科学技術に対する総合戦略(科学技術学術審議会)
7. 北海道大学の教育、人材養成の目標と事例

これらの中からいくつかの項目について、私の主観を通して概要を紹介します。

(2) 学士課程教育の制度改革の歴史と現在の課題

1947 年(昭和 22 年)の学校教育法の制定から 2006 年(平成 18 年)の教育基本法の改正に至るまでの学士課程に関する制度の改正の変遷に触れ、その改正時における進学率の移り変わりについての説明から講演が始まりました。1947 年(昭和 22 年)のスタート時の進学率が 10%だったのに対し、平成 3 年には進学率が 40%へと増加していますが、世界で比較してみると、現在、大学型高等教育への進学率が日本はチェコと同じ 41%であり、北欧の 70%以上はおろか、OECD 平均の 54%にも満たないことは意外でした。韓国より 10 ポイント以上下回っています。

参考資料(2)	
大学型高等教育への進学率	
オーストラリア、ニュージーランド	79～82%
ノルウェー、フィンランド、スウェーデン、ポーランド、アイスランド	73～76%
米国、ハンガリー	64～68%
韓国、イギリス、イタリア、デンマーク、オランダ、スロバキア	51～59%
ギリシャ、スペイン、アイルランド	43～45%
日本、チェコ	41%
ドイツ、オーストリア、スイス	36～37%
トルコ、メキシコ、ベルギー	27～33%
OECD 平均 : 54%	

図-1 講演会資料の抜粋(その1)

また、ビル大学が増えたのは、平成3年にグラウンドが不要になったことが背景にあることを知りました。

そして、少子高齢化社会を反映して、私立の大学の1/3が定員を満足できないという経営の危機、新入生の能力・知識の幅と量が低下している課題や入学後1年以内に退学するものが多い、というような課題を指摘されていました。

(3) 国立大学の改革の方向性

基本的な施策として、①機能別分化の推進、②質保証システムの強化、③大学の国際競争力の強化の3つを挙げて、それぞれ説明されました。

②の質に関してですが、今や大学入学生の半数は無試験で入学しているのが実態だそうで、驚きでした。工学教育分野におけるJABEEのような一定の教育内容・水準を担保する仕組みを広げていくことも質保証の方向性として打ち出されていました。北大では土木系・建築・資源開発に関してJABEEを行っているそうですが、組織としては認定されていない問題を佐伯総長は指摘されていました。もっともな話です。米国では卒業時にFEの試験を受けて3割は落とされているという話を例に挙げておりました。

北海道大学の人材育成の特徴	
工学部では、「土木系」「建築」それに「資源開発」がJABEE会員となっている。	
・JABEEは学科の認証評価のみで、米国のようにFE試験を課していないので評判は良くない。	
・米国ではFEの合格率70%、PEの合格率40%、総合的にはABETで認証を受けた全学科の卒業生の約28%がPEになれる。	
大学院では、工学研究科(現 工学院)においては、修士課程で、自分の属する専攻からまとめて8単位、他の専攻からまとめて6単位、博士課程では第3の専攻から8単位と幅広い知識を得るようにしている。(双峰型教育)	
北大では、大学院全ての学生に対して、大学院共通講義として100科目が準備されている。特に「脳科学」「人間と健康科学」「応用倫理学」「サステナビリティ学」は6科目から20科目で構成されている。まとめて単位を取るとそれぞれディプロマがもらえる。	
その他、GP、GCOE 等による先端的教育プログラムも用意されている。	

図-2 講演会資料の抜粋(その2)

(4) 大学の国際化

大学の国際化に対する日本経団連の報告を提示し

ながら、北大も積極的に国際化を進めるという話をされていました。

具体的には、英語のみで学位を取得できる教育システムを構築する、外国人教員を積極的に採用する、現在1,200名の留学生を10年後までに3,000名を超えるようにする、英語による講義を増やすなどの施策を提示されていました。

留学生に関する統計資料(1)						
留学生比率の国際比較(2005年~2007年)						
	アメリカ	イギリス	ドイツ	フランス	オーストラリア	日本
留学生受入人数(人)	564,766	356,080	248,357	265,039	228,555	118,498
留学生受入れ比率	5.5%	24.9%	12.3%	11.9%	24.2%	3.3%

在学段階別留学生数		留学生宿舎の状況	
学部	60,520人 49.9%	公的宿舎	・学校設置留学生宿舎 13.9% 17,195人 ・公益法人設置留学生宿舎 5.4% 6,686人 ・学校設置の一般学生寮 5.1% 6,265人
大学院	32,666人 26.4%	民間宿舎	75.7% 93,683人
専修学校	25,753人 20.8%		
高等専門学校	538人 0.4%		
準備教育課程	2,235人 1.8%		

図-3 講演会資料の抜粋(その3)

今期中期目標期間の大学の教育、人材養成目標(2)	
2. 北大も積極的に国際化を進める	
・英語のみで、学位を取得できる教育システムを構築する。(学士、修士、博士課程) ・寒さ、雪のハンディキャップはあるが、生活環境を良くすることで、ハンディキャップを克服する。(寮の充実、奨学金制度の充実、学住近接) ・国際関連組織を「国際本部」に一元化し、国際広報、入学者選抜、入国手続、寮等の斡旋、等々、留学生へ One Stop Service を実施する。 ・外国人教員を積極的に採用する。 ・現在1,200名の留学生を2020年までに3,000名を超えるようにする。 ・英語による講義を全学教育、学部、大学院で増やす。 ・北大の海外オフィスを増やす。 現在、北京にあるが、その他、アフリカのザンビア、ヨーロッパのウィーンを予定している。ソウルについても可能性がある。 北大受験の際に札幌まで来る必要をなくす。	

図-4 講演会資料の抜粋(その4)

(5) 質疑応答

講演終了後、会場からは大学の進学率が低い理由について質問がありました。佐伯総長は、それに関して、現在は進学率が50%ぐらいであるが、専門学校に行く学生も多く、一般の大学を卒業しても将来の就職不安が背景にあるのではないかという話をされていました。

次に、世界比較の中で日本の大学進学率が41%



写真－10 質疑応答の様子(その1)



写真－11 質疑応答の様子(その2)



写真－12 応答・説明する佐伯総長

なのは良いのか悪いのか判断つかないが、理想的な数値があるのか、という質問がありました。それに対して佐伯総長は、日本は入学時に絞り過ぎであり、入学試験のハードルを低くして、入り口より出口で絞るべきである、その際のセーフティネットが必要であるが、今はないことも説明されていました。

最後に大学の教育にも技術士の活用を考えるべきであるという意見を会場から頂き、佐伯総長の講演が終了しました。

(6) 講演会に使用したスライド資料

本報告の中でも一部使わせて頂いておりますが、佐伯総長のご厚意により今回の講演で使用したスライドの PDF ファイルを頂いております。平成 22 年 9 月末までの期間、北海道支部ホームページの「会員のページ」にてダウンロードできますので、ご希望の方は下記 URL をご覧下さい。

但し、「会員のページ」にアクセスするには北海道支部の会員 ID とパスワードが必要です。

URL : <http://www.ipej-hokkaido.jp/>

4. 懇親会

(1) 出席状況

予定より少し遅れて 18：00 より会場を隣の部屋に移して懇親会が開催されました。懇親会には佐伯総長も出席され、会員 124 名の出席があり、会場は会員で埋まり盛況でした。



写真－13 懇親会会場の様子(その1)



写真－14 懇親会会場の様子(その2)



写真－15 懇親会会場の様子(その3)



写真－16 懇親会会場の様子(その4)

(2) 懇親会の状況

熱気あふれる中、齊藤支部長の挨拶の後、能登副支部長の乾杯の音頭で開宴となり、懇親会がスタートしました。

懇親会では各テーブル席での歓談に止まらず、色々なところで挨拶と名刺交換や情報交換が行われ、また、昨年の政権交代後の話題や事業仕分けの話題、最近の道内景気に関しての話が飛び交い、大変賑やかな時間が過ぎていきました。

そのような中、今年度の会長表彰に推薦された板垣恒夫支部会計監事と松井義孝支部幹事のお二人にも途中登壇頂き、率直な心境も語って頂きました。

皆さんの笑顔と歓談が尽きず名残惜しい中、最後に中野副支部長が演台に上がり、乾杯で会を締めくくり、懇親会はお開きとなりました。

5. おわりに

(社)日本技術士会の公益財団法人化に伴い協賛会員から会友へと名称が変更されましたが、今後も変わらず皆様が北海道支部活動に参加されることをお願いします。

最後になりましたが、会友の皆様を含めた支部活動が今以上に活発になることによって魅力が増し、延いては会友から支部会員へと会員が増え、益々支部活動が盛んになるよう、今後も会員・会友皆様のご協力をお願いいたします。

森 隆 広(もり たかひろ)

技術士(建設/総合技術監理部門)

(社)日本技術士会北海道支部 事務局次長
株式会社ドーコン

